

## 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

### 【公所名】

県立図書館

### 【タイトル】

フリースクール・放課後児童クラブへのセット貸出

### 【目的】

様々な理由で学校に行けない子供達や保護者が仕事などで日中家庭にいない小学生に、読書をする環境を提供するもの

### 【対象者】

県内のフリースクールや放課後児童クラブ

### 【取組内容】

- 昨年8月から始めたサービスであり、各団体からの要望をお聞きし、県立図書館の本をまとめて貸し出すもの
- 図書は、①各団体で来館の上直接選書 又は②各団体の要望を踏まえ県立図書館で選書
- 貸出冊数は無制限
- 貸出期間は6か月まで
- 県立図書館で図書の送料往復負担（無料）

岩手県立図書館

### フリースクール・放課後児童クラブ セット貸出

図書館の本を  
まとめて借りるサービスです。  
学習や学級文庫などに利用できます！  
まずは、担当までご相談ください。



冊数  
**制限なし**

期間  
**6ヵ月まで**

図書館が送料往復負担  
**送料無料**

**ステップ1**  
団体登録  
HPより「団体登録申込書」をダウンロード。メールまたはFAXでお送りください。

**ステップ2**  
貸出申込  
下記お問合せ先までご連絡ください。

**ステップ3**  
受取  
図書館から無料発送。または、来館して受け取り。

申し込み時に決めること

| 期間 | 冊数 | 対象学年 | 内容                  |
|----|----|------|---------------------|
|    |    |      | *図書が選ぶか<br>*ご自身で選ぶか |

お問合せ先：岩手県立図書館【担当】サービス部  
TEL:019-606-1730 FAX:019-606-1731  
MAIL:liroom@library.pref.iwate.jp

### 【令和7年度実績（令和7年12月末日現在）】

2件（フリースクール）

### 【今後の展開】

各団体からの問い合わせはあるものの、実績が少ないことから、引き続き、周知を図っていく。

## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【公所名】

県立図書館

### 【タイトル】

就労体験実習

### 【目的】

職場体験学習やインターンシップの受入れなど、学校教育の支援を行うもの

### 【対象者】

児童生徒、学生

### 【取組内容】

- 1 職場体験学習（中学校）
  - カウンター業務、書庫出納、配架整理等、多岐にわたる図書館の業務を体験
  - 本が好きで図書館での実習を希望したとの生徒が多く、意欲的に業務を学ぶ
  - 体験後は、「お客様へ笑顔で対応することが大切だと改めて感じた」「司書という職業は人と人をつなぐ大切な仕事だと学ぶことができた」といった感想もあり
- 2 インターンシップ（高校、特別支援学校、大学）
  - 催事受付、おすすめ本を紹介するPOP作成、マイクロフィルムの巻き直しなど実践的な業務を体験
  - 職員の話に興味深そうに聞き、積極的な姿勢で実習に臨む姿が見られる
  - 休憩時間には館内を巡り、児童コーナーで行っていた催事に挑戦するなど、実習の時間外でも図書館を満喫している様子が見られる



### 【令和7年度実績（令和7年12月末日現在）】

- |                   |       |           |
|-------------------|-------|-----------|
| 1 職場体験学習（中学校）     | 7校20名 | 1日又は2日    |
| 2 インターンシップ（高校、大学） | 6校9名  | 1日～3日、2週間 |

### 【今後の展開】

引き続き、学校からの依頼に応じ、就労体験実習に協力していく。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

【公所名】

岩手県立博物館

【1 タイトル】

たいけん教室～みんなでためそう～

【2 背景・目的】

工作、実験などから、博物館に対する興味・関心を呼び起こす契機や展示資料の理解の一助となることを目的とする。

【4 実施体制】

主に一般県民（親子【幼児から小学生】）を対象（必要に応じて抽選。）

【3 取組内容】



【5 成果】

過去に参加応募者の多かった活動内容については複数回実施し、ニーズに応えることができています。  
年中行事や季節を感じられる内容を、博物館ならではのプログラムとして提供することにより、高評価を得ている。

【6 課題や今後の展開】

限られた人員の中で、要望全ての受け入れは困難であるが、多くの県民に対し良質な企画を提供していく。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【公所名】

岩手県立博物館

### 【1 タイトル】

博学連携事業

(岩手県立盛岡峰南高等支援学校)

### 【2 背景・目的】

学校と博物館とで連携した取り組みを行うことにより、博物館としての学びの提供とともに体験学習室の充実を図る。

### 【4 実施体制】

対象者：生徒・教職員

### 【3 取組内容】

体験学習室装束及び資料養生用マット・白布等のクリーニング  
染料を利用した服飾資料（雫石あねこ装束の裂き織の帯）の制作 等



### 【5 成果】

- ・普段の授業とは違う色々な知識を得ることができた。
- ・様々な縫製技術を身につけることができ、オリジナルの作品を作り出せた。
- ・生徒が製作を通して充実感や達成感を得られた。

### 【6 課題や今後の展開】

<課題> 臨機応変な対応、情報発信、館内外での理解を深める など

<展開> 成果物の活用充実、教員・学芸員・地域人材の融合、博物館に対する理解を深め、活用する能力（ミュージアムリテラシーの育成） など



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【公所名】

岩手県立博物館

### 【1 タイトル】

博学連携事業  
(岩手県立盛岡青松支援学校)

### 【2 背景・目的】

学校と博物館とで連携した取り組みを行うことにより、博物館としての学びの提供を図る。

### 【4 実施体制】

対象者：児童・生徒・教職員

### 【3 取組内容】

各部門学芸員による全5回のプログラム。

|     | テーマ【部門】                            |
|-----|------------------------------------|
| 第1回 | 日本刀入門【歴史】                          |
| 第2回 | 校庭の植物観察【生物】                        |
| 第3回 | <u>テーマ展「いわての酒造り」展示<br/>解説会【民俗】</u> |
| 第4回 | 土器の文様の秘密【考古】                       |
| 第5回 | <u>化石のレプリカづくり【地質】</u>              |

※下線は来館により実施



### 【5 成果】

生徒たちに対し、実物に触れる機会が多く設けたこと。制作・採取活動などもが行われ、満足度の高いリレー講座となった。

### 【6 課題や今後の展開】

次年度においても開催打診を受けたこと。回数が減ることから、担当部門については協議が必要。

県立博物館では種々の体験プログラムをご用意しております。こちらも活用いただけますと幸いです。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/education/data/jityurei.pdf>

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立美術館

教育普及事業①

■美術普及事業

(1)スタジオプログラム

- ①オープンスタジオ
- ②アートデオヤコ

①誰でも気軽に制作を体験できるワークショップ。大人でも十分に制作の楽しみを体験できる内容となっています。  
②親子で遊びながらアートを楽しむワークショップで、身近な素材と触れ合い、自由な創造力を引き出そうとするものです。

対象者：①どなたでも（各回20名×8回）  
②未就学児とその家族（各回親子10組）

【取組内容】

- ①夏、冬の年2回開催する気軽に制作を体験できる小学生以上大人向けのワークショップを開催。
- ②毎月1回年間全12回の素材体験型事業で、親子一緒に参加する幼児向けワークショップを開催。  
身近で扱いやすい素材を用い、素材に親しみながら、表現することの楽しさを親子一緒に作業する中で味わう体験の場を提供する。ゆったりとしたスタジオスペースの中で、普段家庭ではなかなかできない思い切った表現活動ができると好評。

|   | 月等  | テーマ                   | 内容                                     | 参加者 |            |
|---|-----|-----------------------|--|-----|------------|
| ① | 夏   | 世界に1つだけの石けん           | 石けん素材の粘土を使ってオリジナル石けんを作る                |     | 161名       |
|   | 冬   | モノノカタチスタンプ            | 意外な材料でスタンプを作り、冬をイメージしたポストカードを作る        |     | 143名       |
| ② | 4月  | ながーい線<br>タワー！タワー！タワー！ | 様々な画材を使って選を描く<br>紙コップ1組500個を自由に積み上げる   | 6組  | 16名<br>86名 |
|   | 5月  | フワリと浮かぶ『鳥の風づくり』       | 色紙をデコレーションしてかわいい風を作る                   |     | 124名       |
|   | 6月  | ながーい線                 | 様々な画材を使って選を描く                          | 8組  | 17名        |
|   | 7月  | どどんねんど                | ちぎる、丸める、たたく、積む、踏むなど粘土の感触を味わう           | 8組  | 26名        |
|   | 8月  | 同上                    |  | 7組  | 17名        |
|   | 9月  | マジカルシャドウ              | 身近な物や体に光をあてて影を作り、色のついた光と影を楽しむ          | 5組  | 13名        |
|   | 10月 | 同上                    |  | 4組  | 10名        |
|   | 11月 | 光るぶんしん                | いろんな格好で段ボールを切り抜いて蛍光色で塗り、暗がりの中で光をあてて楽しむ | 7組  | 19名        |
|   | 12月 | 同上                    |  | 7組  | 21名        |

【オープンスタジオの様子】



【アートデオヤコの様子】



【成果】 ①実際に制作してみるという実技を通じ、美術に親しむ体験をすることができた。  
②子どもたちは親と一緒に参加することができ、ゆったりとしたスタジオスペース内で心置きなく制作作業を体験し、ものを作る喜びを体験するとともに、親子で協同作業することにより、作品を作り上げる喜びを親子で共有することができた。

【今後の展開】 美術館が単なる展示鑑賞の場だけでなく、美術に親しみ美術を体験することができる場として、美術を通じ幅広く多くの方々に利用していただく施設として地域貢献しているものと考えられる。美術に親しむ機会を提供する貴重な事業であることから、今後も継続して実施していきたい。

全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

岩手県立美術館

教育普及事業②

来館者対応事業（造形体験）

■美術普及事業

(2)美術プログラム〈実技体験講座〉

技法・材料体験ワークショップ

■来館者対応事業

(3)団体プログラム

造形体験（特別支援学校・特別支援学級・障がい者支援施設対象）

(2)様々な技法や材料に触れる実技体験を通じて、美術により親しんでいただくことを目的に実施。

(3)美術館の用意した造形プログラムにより、簡単な制作体験をしていただくことを目的に実施。

対象者：(2) 高校生以上一般（各回15名×5回）

(3) 特別支援学校（学級）の児童生徒、障がい者支援施設利用者

【取組内容】

(2)毎年、様々な美術の分野について、各分野の作家等を講師としてワークショップを実施。実際に制作活動をしている現役作家から直接指導を受けることができ、好評で例年応募者多数。

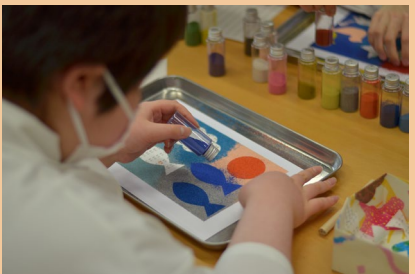
(3)学校等団体の希望に応じ、美術館の用意する造形プログラムによるワークショップを実施。学校等の希望する日時に対応できるよう、柔軟に調整し実施している。

| 月等     | テーマ            | 内容             | 参加者 |     |  |
|--------|----------------|----------------|-----|-----|--|
| 8月     | 日本画            | 講師：菊池咲氏（日本画家）  | 14名 |     |  |
| 10月    | 彫刻×舞台芸術        | 講師：長内努（館長）     | 16名 |     |  |
| (2) 1月 | 鍍金             | 講師：菅川恵梨氏（鍍金家）  | 15名 |     |  |
| 1・2月   | 油彩画            | 講師：岩淵毅弘氏（画家）   | —   |     |  |
| 2月     | 立体デザイン         | 講師：路奥英範（美術館職員） | —   |     |  |
| 月等     | 学校             | 児童・生徒          | 引率  |     |  |
| 5月     | となん支援学校        | 中部3年           | 4名  | 4名  |  |
| 6月     | 盛岡ひがし支援学校      | 4年生            | 15名 | 10名 |  |
| 6月     | 盛岡視覚支援学校       | 中学部            | 2名  | 4名  |  |
| 7月     | 盛岡ひがし支援学校      | 2年生            | 9名  | 6名  |  |
| 7月     | 盛岡市立大新小学校      | 特別支援学級         | 15名 | 3名  |  |
| (3) 7月 | 岩手大学附属特別支援学校   | 中学部            | 17名 | 10名 |  |
| 9月     | 盛岡となん支援学校      | 小学部5年生         | 3名  | 6名  |  |
| 9月     | 盛岡みたち支援学校二戸分教室 | 中学部            | 4名  | 3名  |  |
| 9月     | 盛岡市立米内小学校      | 特別支援学級         | 3名  | 2名  |  |
| 9月     | 盛岡となん支援学校      | 訪問学級           | 2名  | 4名  |  |
| 10月    | 盛岡みたち支援学校      | 小学部            | 5名  | 3名  |  |

【技法材料体験WSの様子】



【造形体験の様子】



【成果】 (2) 美術の各分野の専門家が講師となることから、専門的な技法や材料に触れ、それらについて講師から直接専門的な解説・指導を受ける貴重な体験をすることができた。

(3) 児童生徒及び障がい者支援施設利用者は、美術館の用意した造形プログラムにより簡単な制作体験により、ものを作り上げる喜びを体験することができた。

【今後の展開】 美術館が単なる展示鑑賞の場だけでなく、美術に親しみ美術を体験することができる場として、美術を通じ幅広く多くの方々に利用していただく施設として地域貢献しているものと考えられる。美術に親しむ機会を提供する貴重な事業であることから、今後も継続して実施していきたい。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 岩手県立県南青少年の家

#### 4泊5日程度の中期自然体験型の事業

#### 「水と緑のフレンドシップ」

子どもの生活のデジタル化・屋内化、自然体験や仲間と協力する機会の減少、集団生活や直接的コミュニケーションの経験不足という現代的課題から、自然の中でのダイナミックな活動を軸とし、挑戦、失敗、工夫、協力などを通して、参加者の成長を計画的に促す「教育型事業」として実施した。

対象：岩手県南地域に所属する小学校5・6年生並びに中学校1～3年生

#### 【取組内容】

- ・ プレキャンプ：低山登山、テント設営練習、ミーティング、薪割り、野外炊事等
- ・ 本キャンプ：テント設営、登山計画、自主行動型登山、沢登り、キャンプファイヤー、創作活動等

中長期キャンプの場合は負荷が強い活動が続くため、参加者の様子を事前に知ること、適切な計画のもと実施することができると考え、本キャンプ前に1泊2日のプレキャンプを実施。



【成果】 複数回実施することでプレキャンプの失敗や経験が生かされ、自主的な工夫や協力が生まれたり、達成感や充実感を得たりすることができた。教育的なねらいを持ったプログラム構成と、毎日の自己の振り返り活動により、参加者から「自分の中での変化や成長、仲間への気づき」が語られ、回を重ねるごとに質的な高まりがみられた。

【課題や今後の展開】 本事業は主体性・協働性を育み、心身の健康や自然環境の大切さの理解を深める点で有用且つ不可欠である。今後も安全管理や、体験活動をサポートする地域の人材(団体)の発掘・活用・連携を進めていく。

## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 岩手県立県南青少年の家

1泊2日の自然体験・創作・交流体験型事業

#### 「自然ワンダークラブ」

異年齢で構成される集団でさまざまな活動を体験することにより、岩手の自然や風土についての理解を深め、仲間・自然・岩手を大切にすることを育てようと「体験型事業」として実施した。

対象：岩手県内の小学校4～6年生

#### 【取組内容】

- ・ テント泊、野外炊事、ナイトハイク、ハイキング（低山登山）等

異年齢の参加者により高学年のリーダーシップを育むとともに、自然に興味を持ち、体験活動を楽しむことで自尊感情を育み、レジリエンスを高める事業として実施した。



【成果】「楽しむ」「成長」「相手・自分・自然を大切に」というめあてを共有し、アイスブレイクを通して相互の関係を構築して活動できたことで、仲間と声をかけ合ったり、サポートし合ったりする様子が随所に見られた。日々のふり返りにも、ねらいに沿った感想がいくつも書かれていた。

【課題や今後の展開】自然体験に関心を持つ参加者に参加は偏り、未経験者層へのアプローチは依然課題である。市町の教育委員会や社会教育担当等との連携を強化することが体験活動の充実に必須と考える。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 岩手県立県南青少年の家

親子対象の自然体験または創作・交流型事業

#### 「かるがも親子体験教室」 ～かるがも親子ファミリーキャンプ～

- ・親子の共同体験や交流活動を通じ、親子の絆を深めるとともに子育てをする保護者同士の仲間づくりを促進する。
- ・親子で防災について考え、普段の生活から防災を意識する契機とする。

対象：小学校1～3年生の子どもをもつ家族

#### 【取組内容】

- ・ テント泊、野外炊事（防災炊飯含む）、焚き火、ナイトハイク、選択活動（創作活動・ニュースポーツ）

地元企業との連携により提供いただいた菌床しいたけのもぎとり体験と、親子のふれあいを楽しみながら「キャンプ力＝防災力」を保護者に理解させる事業として実施した。



【成果】 「キャンプ力＝防災力」を意識したプログラムにより、親子でキャンプを楽しみながら、防災意識を高めることができた。体験を一方的に提供して終わりではなく、参加者が「自分たちでもできる・やってみたい」と、一歩踏み出せるような内容にすることができた。新聞社に取材を依頼し、体験活動の楽しさを県民に広く伝えることができた。

【課題や今後の展開】 低学年の子どものいる家庭にとっては調理が滞る場面も見られたので、高さの違う台を用意する等工夫が必要だと感じた。親子による自然体験活動はニーズの高い事業である。より多くの家族に提供するために複数回実施していく。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 岩手県立県南青少年の家

#### 「放課後子ども教室指導員・児童クラブ職員等合同研修会（一関市）」

県南教育事務所管内社会教育担当者研修会の参加者から、子どもと指導者の良質な関係性構築と問題解決能力の育成のための「指導者育成プログラム」の指導依頼を受け実施したもの。

対象：放課後子ども教室の指導員や見守り職員、児童クラブの職員、市民センター職員等

#### 【取組内容】

- ・ 講話、実技（プロジェクトアドベンチャー）体験

毎年講義中心だったが、今年度は実技も取り入れ、職員自身が体験することで体験活動の効果や必要性を感じてもらった。



【成果】参加者から「今日から実践します」「子どもとの関係づくりのコツをいただいた」「実践してみて楽しかったので地区の行事などで集まったときにぜひやってみたい」など高評価をいただいた。講義の後に、参加者自身が楽しみながら体験する”参加型研修会”としたことで、体験活動の重要性を理解させることができ、各施設における「体験活動の充実」につなげることができた。

【今後の展開】参加者の様子や事後アンケートからも、ニーズは十分あると感じられた。市町職員や教育振興運動担当者、地域の子どもの居場所関係の指導員に体験活動の指導に対する困り感があると感じられた。市町・地域において「体験活動の充実」をさらに拡充させていくために、担当者会議でのアプローチ等連携を強化していく。また、本研修会で取り扱った内容のアウトカム調査を行い、効果を明確にするとともに改善をしながら、社会教育施策の推進につなげていく。

## 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

### 岩手県立県南青少年の家

#### 4泊5日程度の中期自然体験型の事業 「通学合宿」

日常の家庭生活とは切り離れた環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や体験活動・学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図る。

対象：金ケ崎町立永岡小学校、西小学校、  
第一小学校の5・6年生児童

定員：各校10名程度（計30名程度）

#### 【取組内容】

- ・ 1日目 … アイスブレイク、学習時間、読書時間、ナイトハイク
- ・ 2日目 … 学習時間、読書時間、ネイチャーゲーム、グループレク、創作活動
- ・ 3日目 … 学習時間、読書時間、ファイナルパーティ（保護者参観可能日）
- ・ 4日目 … 清掃、退所点検、ふり返り



指導員が家庭学習のサポート、各プログラムを行いながら「ノーメディア」で4日間規則正しい生活を送った。

【成果】「友だちのために動いたり、自分から挑戦したりできるようになった」「寝起きがよくなった」「テレビやゲームがなくても、外で遊んだり何かを作ったりすることで楽しく過ごせた」等のふり返りが多数見られた。ノーメディアで人と関わる時間が増えたことによるプラスの効果や自己変容が見られた。金ケ崎中学校に入学する小規模校の高学年が共同生活を行うことにより、中1ギャップの解消、人間関係作りのためにも本事業は大変有効である。

#### 【課題や今後の展開】

本来であれば町内5校での実施が望ましい。中1ギャップの解消、人間関係作りのためにも本事業は大変有効であることから、対象校ではない小学校への意識調査はもちろん、将来的にモデルケースとして他市町への拡充を考え、県教育委員会や町教育委員会への連携及び支援要請を強化していく。



## 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

### 陸中海岸青少年の家

#### 「家庭学習の充実」の下支え

家庭学習の充実に資する家庭の環境づくりを目的として取り組んだものであること。

対 象：主催事業参加親子  
出前講座利用団体親子

#### ○家庭教育のすすめ

親子参加型事業を絶好の機会と捉え、親子の交流及びかわり方等について考えたり振り返ったりしていただく場面を設定した（家庭教育ミニ講座を含む）。また、親子の活動を主とした出前講座の際には、教育振興運動の課題内容について周知を図るよう努めた。

#### ○生涯学習推進センター事業の紹介

センター発行チラシを配布し、「すこやか電話相談」「すこやかメール相談」「すこやかメールマガジン」を紹介した。また、「すこやかメールマガジン」の内容を印刷し、読み上げたうえで資料として配布する等を実施した。



#### 【成果】

- ・各事業を通じ、教育振興運動の推進及び全県共通課題への取組について、周知及び啓発することができた。
- ・保護者を対象とし、子ども達の学習（学び）の基盤となる家庭教育について考えていただくことができた。概ね好評であった。

#### 【課題や今後の展開】

- ・継続的に取り組むための予算確保
- ・今後も、可能な範囲で共通課題に取り組むものであること。



陸中海岸青少年の家

誰一人取り残さない学びの保障

不登校及び引きこもり傾向にある児童生徒を対象とした体験活動機会の促進

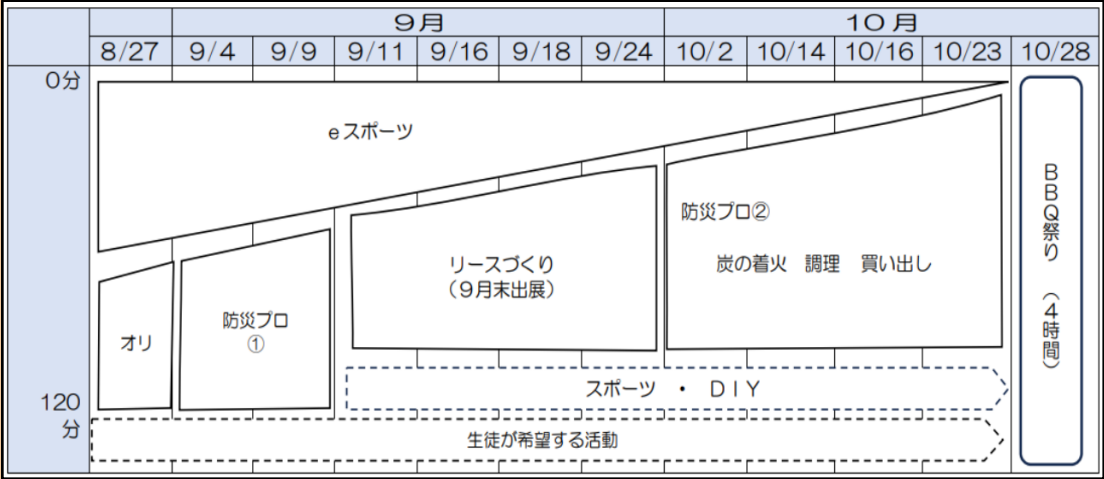
- 連携機関
- ・フリースクール(宮古市)
  - ・教育支援センター(山田町)

【取組内容】



○連携機関の願いに基づいた助言及び指導

企画・計画段階から県派遣社会教育主事が参加し助言・指導を行った。また、連携先担当職員と打ち合わせ等も行い、活動及び指導の計画立案も支援した。その資料を生徒及び保護者に示すことで、見通しをもたせる効果にもつながった。



- 【成果】
- ・対象の児童生徒に、より多くの体験活動機会を提供することができた。
  - ・連携機関の職員を支援することができた。
  - ・対象児童生徒の学びに対する意欲化を図ることができた。
  - ・本事例の実践をベースとし、実践事例対象以外の多くの児童生徒に対しても、創意工夫を重ね体験活動の充実を図ることに取り組んでいるものであること。

- 【課題や今後の展開】
- ・意図的及び計画的な指導の充実
  - ・指導内容及び担当職員の多様化
  - ・新たな連携機関及び対象児童生徒の拡充

# 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

## 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

### 体験活動と子育てのワークショップ

### 【2 背景・目的】

親や子育て関係者が、ワークショップによる親和的な雰囲気の中で、五感が働く体験と学習の関係を明らかにするとともに、生活体験の充実と学習環境のあり方について考える。

### 【4 実施体制】

保護者、PTA、子育て関係者、学校、教育委員会等

### 【5 成果】

体験活動の充実が子どもの学ぶ力を伸ばすことや、家庭での学習環境の整え方の理解が深まった。  
ワークショップにより、子育ての悩みを保護者が気軽に出し合い共感し、意識や関心が高まった。

### 【3 取組内容】

○主催事業「親子でデイキャンプ」～おしゃべりティータイム～  
親子で気軽に日帰りキャンプを楽しむ趣旨で開催した。

たき火や野外調理を楽しんだ後、子どもたちは指導員が森の冒険に連れ出し、保護者はお茶やお菓子を用意した会場で「子育てと体験活動」についての講話とワークショップを行った。

内容 アイスブレイク（グループ作りとおしゃべりゲーム）

講話 五感を耕す体験活動（ネイチャーゲーム、森のようちえん）  
脳の仕組み（感覚が学ぶ力を伸ばす）

家庭の学習環境づくり、メディアと脳のはたらき

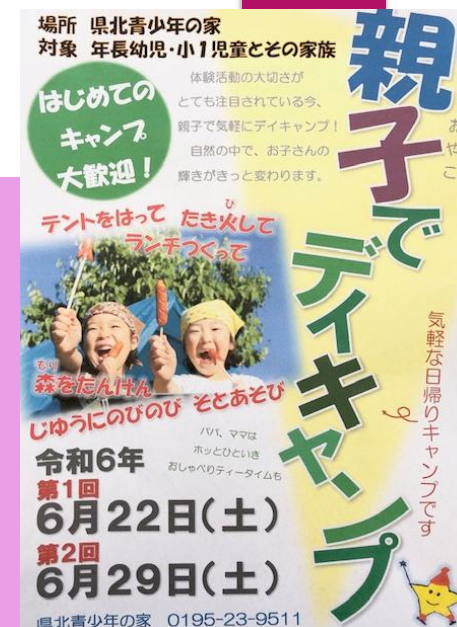
ワークショップ「宵活のススメ」～家庭で日常的に体験活動を楽しむために

○出前講座「子育てと体験活動」「宵活のススメ」講話・ワークショップ  
教育振興運動集約集会・研修会、地区懇談会、PTA研修会、子育て講話  
などから要請を受け実施した。

☆ポイント 五感を働かせること 家族の温かさを感じながら勉強すること

### 【6 課題や今後の展開】

出前講座の講話、ワークショップの機会を広げる。  
一度行ったところには、ステップアップした内容で実施する。





# 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

## 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

長期休みの宿題をがんばりたい子を応援する

### 夏休み・冬休みしゅくだいバス

### 【2 背景・目的】

子どもの居場所づくりプロジェクトの一環として、長期休み中の子どもたちをそれぞれの学校や地域からバスで迎え、宿題をさせるという事業である。学校を離れても勉強をがんばる意欲付けになり、少しでも学びの自立につながることを願い実施した。

### 【4 実施体制】

児童、家庭、学校、学童クラブ、市町村教委等

### 【5 成果】

「宿題がどんどん進んだ。」との感想が毎回聞かれ、家でも褒められるとのことである。この事業をきっかけに、家庭でも学習について肯定的な話題が交わされていると想像され、子どもの学習意欲の向上と家庭の学習環境づくりに役立っている。

### 【3 取組内容】

「夏休み・冬休みの宿題をがんばりたい子を応援します！」をキャッチコピーに、二戸管内を6ルートに分けてバスで子どもたちを集め、学習会を行った。

どの子も一生懸命勉強をがんばり、指導員は机を回って教えたり励ましたりする。

途中に、お楽しみの工作やプラネタリウム鑑賞を行い気分転換する。昼食には「しゅくだいカレー」をもりもり食べ、休憩時間には思い切り遊んで、元気いっぱい過ごしていく。

子どもたちはとても楽しみにしており、リピーターが多い。保護者や学童クラブ、学校からも大変好評である。



### 【6 課題や今後の展開】

バスの送迎の都合により、参加できる子が二戸地域に限られている。また、各地区1回しか実施できない。

市町村と連携し、共同事業としてそれぞれのバスで送迎してもらえば、久慈地域からの参加や回数を増やすことも可能になる。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

体験活動の要「五感」を耕す

「たき火」活動のススメ

### 【2 背景・目的】

質の高い体験活動のプログラムとして「たき火」活動を開発し、子どもや家族対象の事業で実践するとともに、一連の活動をパッキングし、市町村の研修会や体験事業、PTAや子供会等の行事で気軽に利用できるようにした。これにより、質の高い体験活動の促進と普及を図る。

### 【4 実施体制】

事業参加者（子ども、家族）、市町村社会教育担当者、PTA、子供会育成会、学童クラブ、地域子ども教室等

### 【5 成果】

○小グループや家族で取り組む活動により、どの子もお客様にならず主体的に活動する様子が見られた。  
○安全性を高める配慮や工夫により、安心して活動に集中することができ、五感を発揮する活動のよさを保護者や指導者に実感してもらうことができた。

### 【3 取組内容】

体験活動のキーワード「五感」を耕す最も効果的な活動として、昨年度から「たき火」の実践を通してプログラム開発を行った。

柴刈り（薪集め）→薪の準備→火起こしやマッチ擦り→火を育てる→調理→食事→後始末等、一連のたき火に関わる活動は、五感すべてが発揮され、効果的な体験活動となっている。

○一連の活動をパッキングし、誰でも気軽に利用できるプログラムとした。また、出前講座で利用できるよう機動性を持たせた。  
○取り扱いが簡単なバウルー（ホットサンドメーカー）を使った調理により、安全でバリエーションが楽しめる活動になっている。  
○教育事務所、市町村担当者会議等で活動を周知し奨励した。



### 「たき火」活動実施事業

- ・親子でデイキャンプ（日帰り）
- ・ワンデーキッズキャンプ（日帰り）
- ・サマーチャレンジキャンプ（4泊5日）
- ・にこにこキャンプ（1泊2日）

### 研修利用での「たき火」活動実施団体

- ・葛巻保育園
- ・奥中山学童
- ・二戸市教委生涯学習課

### 出前講座での「たき火」活動実施団体

- ・普代村教育振興運動協議会
- ・一戸南小学校PTA（荒天により内容変更）
- ・普代小学校6年PTA（1月実施予定）

### 【6 課題や今後の展開】

- ・五感を発揮する体験活動の周知と奨励をさらに進める。
- ・火に関わる活動であることから、自己防衛力、危機管理能力や、防災意識の高まりが期待できる。

## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

## 県北アウトドアアカデミー発足

### 【2 背景・目的】

子どもの体験格差が大きな問題となっている。当施設でも体験活動の事業費が無く、費用を全てを参加費から賄うため、高額になる。このような問題の解消のため、体験活動の支援サークルを立ち上げ、無料で誰でも気軽に参加できる体験活動を提供する。

### 【4 実施体制】

## サークル会員

### 【3 取組内容】

県北青少年の家を拠点に、子ども食堂の体験活動版的な気軽に参加できるイベントを提供するサークルを立ち上げた。（参加費は原則無料）サークルが青少年の家の利用者として申請許可を受け、イベントを運営する。  
イベントの周知は、県北青少年の家のInstagram等SNSやチラシの配架等で行う。

1回目のイベントとして、ペルセウス流星群の時期に合わせて観察会を開催した。直前の告知にも関わらず、ちょうど帰省した家族等26名が参加して、プラネタリウム鑑賞の後、つどいの広場にマットを広げ、流星群や星座観察、望遠鏡での月や惑星の観察を楽しんだ。流星が何度も流れて歓声が上がり、特製「流星フランク」がふるまわれるなど、楽しい観察会となった。

今後予定されているイベント

- ・森の昆虫採集 ・材料持ち寄りのたき火BBQ
- ・季節の星空観察会 ・乗れない子の自転車教室
- ・スノーシューで森探検（アニマルトラッキング）



流星群観察会のチラシ

### 【5 成果】

○参加費無料、申し込み不要など気軽に参加できるイベントの仕組み作りができ、サークルの活動を開始することができた。

### 【6 課題や今後の展開】

- ・必要な人に届く周知の方法やネットワークづくりを工夫する。
- ・協賛などによる活動資金等の捻出を模索する。



## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

主体性をはぐくむ体験フィールドづくり

### 【2 背景・目的】

決められた研修プログラム以外に研修者が自由に体験したり遊んだりできるフィールドを設定することにより、主体的な活動や挑戦を促すとともに、体験活動の幅を広げる。

### 【4 実施体制】

研修者、家族等

### 【3 取組内容】

宿泊研修の指導者や子供会育成会には、余裕を持った計画を勧め、失敗してもやり直しができる時間を保障するとともに、余裕で生まれた時間に、野遊びなど自由に楽しめるフィールドや活動、居場所を用意した。

主催する体験事業でも、野遊びの自由時間をたっぷり設け、出会った友達と遊びを通してふれあいを深めるようにした。

親子事業にも野遊びタイムを設け、家族であそびに来ることができると案内をし、気軽に活用してもらえるようにした。



厳選した本やボードゲーム、ウクレレ等を置いた居場所「やまとぎんがのとしょかん」



ハイジブランコ



ハンモック



スラックライン



シャボン玉



木登り



ボルダリング

### 【5 成果】

- ご褒美的に自由遊びができるため、主の研修活動にもより一生懸命取り組む子どもたちが見られた。
- 安全で自由なフィールドや居場所を設定したことで、普段できないようなダイナミックな遊びを提供できた。
- 気軽に遊びに訪れる家族が増え、安心して子どもを遊ばせることができると好評である。

### 【6 課題や今後の展開】

安全の配慮を十分行いながら、体験フィールドを充実させていきたい。

## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

### 【実践区名】

## 県北青少年の家

### 【1 タイトル】

市町村との協働による体験活動の充実

### 【2 背景・目的】

便利な生活と引き換えに生活体験が画一化し乏しくなっている子どもたちに、人と触れ合いながら豊かな社会体験を経験させたい。

### 【4 実施体制】

市町村教育委員会、普代村商店街、地域住民等

### 【5 成果】

普代村との連携協働により、施設だけではできないダイナミックな自然体験を提供できただけでなく、地域のよさを味わい、人々の温かさにふれながら、大変貴重な社会体験を経験させるができた。

### 【3 取組内容】

4泊5日の主催事業「サマーチャレンジキャンプ」の中2日間を普代村にお世話になり、社会体験を含む様々な体験活動を行った。

普代村での主な活動

1日目 普代村商店街での買い物（夜のBBQの食材）  
震災学習（普代水門見学と講話）  
普代浜でビーチコーミング～番屋での昼食  
みちのく潮風トレイル踏破（黒崎漁港～黒崎展望台）  
黒崎キャンプ場でのキャンプ、たき火BBQ

2日目 朝食（商店街のパン屋さんからの提供）  
三陸鉄道貸切列車（ポケモン列車）で移動 大沢橋梁大漁旗の見送り

商店街では、精肉店、鮮魚店、製菓店等をグループで訪問し買い物をした。肉の量り売りに感激する子、魚の調理を相談する子、バスの運転手にアイスを届ける子など、活発に地域の方とふれあいながら買い物を楽しんだ。

普代水門での震災学習は、津波の規模を実感するとともに、水門を動かした消防隊員の苦労や切迫した状況など、貴重な話を聞くことができた。

子どもたちは、普代浜の活動やトレイルの踏破、展望台からの景色など、普代の大自然のすばらしさを味わうとともに、地域と人のよさにたっぷり触れることができた。三鉄で大漁旗の見送りを受け、子どもたちはとても喜び感動していた。



### 【6 課題や今後の展開】

市町村との連携協働を益々深め、子どもたちに地域のよさやふれあいの大切さを味わわせる体験活動を考えていく。



## 全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

陸前高田市

### 岩手県立野外活動センター

主催事業

#### 「通学宿泊合宿」

##### 【目的】

日常の家庭生活と切り離れた環境での共同生活や体験活動・学習活動を行い、基本的な生活習慣の向上を図る。

##### 【参加者（任意：希望者全員受入）】

高田東中学校区の陸前高田市立広田小学校、小友小学校、米崎小学校の6学年児童（対象全57名中31名参加）

##### 【成果（参加児童の感想）】

- ・ 家ではテレビを見ながらやって全然はかどらないけど、みんなと一緒に楽しく真剣にできてよかった。
- ・ メディアがなくても、友達がいれば楽しく生活できると思った。

##### 【取組内容】

野外活動センターで  
3泊4日共同生活し、  
センターから登下校



毎日1時間の「学習タイム」では、  
岩手県教育委員会事務局、  
陸前高田市教育委員会、  
沿岸南部教育事務所等から  
多くの方にご協力  
いただき、児童の  
学習支援にあたった



「夜の集い」で日替わり体験活動

【1日目】レクリエーション

【2日目】創作活動  
(星空ジオラマづくり)

【3日目】ニュースポーツ体験（ボッチャ）



##### 【課題】

- ・ 学習タイム対応の人員確保
- ・ 学校ごとの学習内容や課題の量の差
- ・ スポーツ少年団等の活動での外出、途中参加への対応

## 全県共通課題「体験活動の充実」実践事例

陸前高田市

### 岩手県立野外活動センター

主催事業

#### 「ドラマチック海遊塾」

##### 【目的】

初めて集う仲間たちと4日間ともに生活を送ることで、協力することの大切さや仲間を思いやる気持ちを育み将来を担う子供たちの成長の一助とする。

##### 【参加者】

岩手県内および宮城県気仙沼市の  
小学5年生～中学3年生 合計29名  
高校生ボランティアスタッフ3名

##### 【主な活動内容】

##### 【1日目】

- ・ライフジャケット体験（海水浴）
- ・貝がら探し



2泊目  
までは  
館内泊



##### 【2日目】

- ・いかだ体験
- ・ジェルキャンドル作り（1日目の貝がら使用）
- ・ボードゲーム（防災かるた、SDG's 虹色かるた、陸前高田方言トランプ）
- ・ナイトハイク星空観察



##### 【3日目】

- ・SUP体験
- ・野外炊事（焼きそば）
- ・キャンプファイヤー



3泊目は  
テント泊



##### 【4日目】

- ・ホットドッグ作り



##### 【成果（参加児童の感想）】

- ・ 普段はできないようないかだ体験やキャンプファイヤーができてとても楽しかった。
- ・ 知らない人と友達になることができた。協力のすごさを知った。

##### 【課題】

- ・ 暑さ対策（館内にエアコンがないため）
- ・ リピーターと新規参加者との経験値の違い